

## 6 MG パール (環境)

### ●2016 年度「MG パール」の主な活動

日にち	内容 (参加人数)
4/6 (水)	国際ソロプチミスト 東京-弥生「観桜会」(3名)
5/28 (土) ~5/29 (日)	大学祭「戸塚まつり」に出店 (両日合わせて8名)
5月 (~7月)	春学期生協販売
6/17 (金)	夏至キャンドルナイト (2名)
6/18 (土)	1 Day for Others「オランウータンから学ぼう! ボルネオ島の環境問題」実施
8/6 (土)・8/7 (日) 8/27 (土)・8/28 (日)	オープンキャンパス (全日程合わせて3名)
9/18 (日)	白金地域の造形作家との制作会 (6名)
9月中旬 (~12月)	秋学期生協販売
9/24 (土)・9/25 (日)	夏合宿 (1年生・2年生合わせ8名)
9/29 (木)	BCTJ (特定非営利活動法人ボルネオ保全トラスト・ジャパン) 月例会 (2年生1名、1年生3名)
11/1 (火)	ITTO (国際熱帯木材機関) 訪問 (4名)
11/2 (水)・ 11/3 (木・祝)	大学祭「白金祭」に出店 (両日合わせ8名)
11/5 (土)	ちばZOO フェスタ
3/15 (水)	白金地域の造形作家との制作会 (5名)

今年度も環境問題の学習やアクセサリーの制作・販売など多岐にわたる活動をさまざまな方と協力しおこなうことができた。

春、制作体験や新入生歓迎会で新しいメンバーを迎え入れ、戸塚まつりから本格的に1年が始まった。戸塚まつりでは学内だけでなく地域の方や受験生の方にもボルネオ島の現状を伝え、商品を手に取っていただくことができた。新入生は初めての販売となったが、積極的に手順を覚えてくれ、スムーズに販売をおこなうことができた。

キャンドルナイトでは啓蒙活動や販売のみならず、電気を消すことで節電の重要性を学んだ。

夏のオープンキャンパスでは、受験生や保護者の方に自分たちの活動だけでなく、本学や大学での学びについてお伝えすることができた。また、リボンを使ったストラップ制作体験をおこなった。

制作会では白金地域の造形作家さんのお宅にお邪魔し、新聞紙ブローチの制作をおこなった。

夏の合宿は箱根にておこなった。生命の星・地球博物館や箱根ビジターセンターへの訪問で自然環境についての知識を深め、植物園で熱帯植物の観察をした後、フラワーアレンジメント制作体験をおこなった。

秋学期は熱帯雨林の保護に取り組んでいる国際機関や NPO 等を訪問し、学びを深める機会を多く持つことができた。9月には、MG パールが連携させていただいている BCTJ (特定非営利活動法人ボルネオ保全トラスト・ジャパン) の月例会に出席し、ボルネオ島の現状を伺うことができた。また、11月は森林保全を目的に活動されている ITTO (国際熱帯木材機関) を訪問し、熱帯雨林の現状や改善策を

学んだ。

白金祭では多くの学生や地元の方々、受験生の方々がブースに足を運んでくださり、充実した啓蒙活動および販売をおこなうことができた。また、ちばZOO フェスタではBCTJの枠でボランティアスタッフとして参加し、日頃からお世話になっている団体の皆さんと啓蒙活動・販売をおこなうことができた。

(学生メンバー 文学部英文学科)

### ◇オランウータンから学ぼう！ボルネオ島の環境問題

目的	「1 Day for Others」プログラムとして実施 ボルネオ島の環境問題が自分たちの日々の生活と密接にかかわっていることを多くの学生に知ってもらい、人間と動物・自然の共存について考える
場所	多摩動物公園・パルテノン多摩
活動内容	午前：多摩動物公園にてスカイウォークをするオランウータンの野生に近い姿を見学 午後：パルテノン多摩の会議室に移動 ・ボルネオ島の環境問題について学習 ・グループごとに現地の人や企業の人などボルネオ島の環境問題に関わっている人の立場に立ちロールプレイやディスカッションを実施
活動日時	2016年6月18日(土)
参加人数	リーダー学生1名、一般学生15名

#### 実施概要

ボルネオ島の環境問題およびボルネオ島の動物が置かれている厳しい状況が自分たちの日々の生活と密接に関わっていることをより多くの学生に知ってもらうことを目的とした。動物園を訪問し、オランウータンを間近で観察した後、会議室でBCTJよりボルネオ島に関するレクチャーを受け、ロールプレイおよびディスカッションを通して人間と動物・自然の共存について考えた。

#### 感想・活動を通して得た学び

ボルネオ島で起こっているさまざまな環境問題には先進国であり、消費者の立場である私たちが密接に関わっていることを再認識した。便利で快適な生活を通じて“加害者”になりうるということを痛感したと同時に、節約や寄付金での支援、食料廃棄を減らすなど、日本にしながら日々できる支援は多くあるため、より多くの人にボルネオ島のことを伝えていく必要があると感じた。

#### 今後に向けて

春からは新入生も加わるため、例年同様、新入生向けにパワーポイントでの発表やクイズを通じてボルネオ島の環境問題について学んでもらい、初めてイベントに参加する頃には一人でもお客様に啓蒙活動をおこなえる程度の基礎知識を習得できるよう指導する。また、メンバーの中で仕事の負担量が偏ることのないよう一人ひとりの役職と責任を明確にし、不平等がでないようメンバーを指導していく。

来年度は白金キャンパスに移るメンバーが多いため、品川区に本部のあるBCTJとより密な交流をはかっていく。

(学生メンバー 文学部英文学科)